

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月21日(水)

《心の畑を耕しなさい》

主の平和

今日は余りにも有名な種蒔きの比喻についての福音(マタイ 13・1-9)を読みました。

さあ、この例え話しについては色々な解釈が出ているし、今まで色々な説明があったと思います。そして皆様が理解していらっしゃる内容も、それぞれにちょっと違うかもしれません。私も色々な角度からこの種蒔きの比喻について、皆様に申し上げて来たのですが、今日はもっと違う観点から見てみたいと思います。

何故、神様は種を蒔くのに、いい土地に蒔かないで「道端とか」、「石だらけの土地とか」、「茨の間とか」そのような所に蒔いたのでしょうか。これでは下手な農夫でしょう。上手な農夫はちゃんと土地を整えて、どこに種を蒔けば芽が出て育つかを分かって、確信を持って蒔きますよね。これを耕しと言います。しかし何故、神様はこんなに下手に、悪い土地に種を蒔いたのでしょうか。答えられる方は？ この答えは一言では言えません。

さあ、このように考えて見て下さい。この畑は何を意味すると私が申し上げましたか？ “心の畑” と言いましたね。ある相談者からこのような質問が出たのです。「神様は下手じゃないですか。何故悪い所へ種を蒔いてそのように苦勞する人々、そして、どうしても自分を成し遂げられずに死んでしまう人を可能にしたのでしょうか。神様はちょっとおかしいですよ。」と。しかしこの例え話しを完全に間違えて理解した事だと説明しました。

さあ、その種が落ちた所は私達の心です。そして、この福音で説明している土地は、神様に会う前の人々の心の状態を意味します。ですから、イエス様が現れて福音を述べ伝えても、それを受け取る人もいたけれど、殆どの人が受け入れなかったのです。受け入れられないようにしている色々な物、茨や石とは、それは自分の傲慢さとか、今まで自分が持っていた固定観念とか、罪とかによって“自分の畑が荒れている”事を意味します。神様はいつも惜しまずにご自分の愛を私達に下さる方です。荒れ果てている人にも神様はご自分の愛を見せました。誰にも同じように見せました。しかし見せて下さったその愛を、自分がどう受け取るかによって変わります。私達が、どのようにそのイエス様の御旨を受け取るかによって、その愛が、御旨が、実るかどうかが決まるとおっしゃっているのです。私達が何よりも取り組まなければならないのは、自分の心はどんな状態になっているのか、それをいつも振り返って見る必要があります。もし私のこの“心の畑”が枯れていて、全く水分がない状態ならどうします。この福音のメッセージは“畑を耕しなさい”と言う意味だと私は思います。石があったら石を取り除いて捨てて、茨があったら茨をなくすればいい。しかし、私達がいつも考えるのは「私は茨の状態です。今までやって来たのでこれは運命だ、どうする事も出来ない。しょうがなくして私は石だ

らけの畑で生きる方法しかない。何故私を救ってくれないのか。」と、文句ばかり言っているのが私達の姿だと思います。このメッセージ、隠れているメッセージは“全ての人々が自分の心を耕さなければならぬ”事をおっしゃっているのです。今の状態についてがっかりする必要もありません。石があれば取り除けばいいし、茨があれば切って捨てればいいし、そして肥料が無かったら、どうにか肥沃に心の畑を作ればいいのです。そうすればイエス様が私達に既に下さった種が実って30倍、60倍、100倍になる。そういう事を信じるのが一つの信仰だと思います。

皆様、地獄、天国がありますよね。そしてその真ん中には煉獄があります。煉獄とはどういう所でしょうか。それは清める所です。清められなかったら地獄に落ちるとか。清められたら天国に行くとか。それをカトリック教会は今まで強く教理として信じて来たのです。私達が善いことをしても、必ず煉獄を通らなければならない事は教会が教えている内容です。結局私達は、上手い生き方をしたか、そうじゃないかに関わらず、必ず通らなければならない所が煉獄であると勉強したわけです。

さあ、広い意味で煉獄とはどこか考えて見ましょう。それはこの人生ではないでしょうか。結果的に私達が生きているこの場が煉獄ではありませんか。そうする事によって天国も体験できるし、そうする事によって地獄も体験する事が出来るわけです。これは毎日の事ですよね。そして、もし天国の体験が多かったらその人は天国に行けるのでしょうか。地獄の生活に傾いてしまったら、しょうがなくて延長される事になるだけでしょうか。皆様、何よりもご自分の“心の畑”を大事にして下さい。それは神様が耕してくれません。自分が耕します。しかし道具は神様が下さいます。どのように下さるのでしょうか。色々な方法を教えて下さいました。「祈りなさい、愛し合いなさい、分かち合いなさい。」そして「悔い改めなさい。」色々な言葉によって私達に“心の畑”を耕す方法を教えて下さったわけです。その方法の通りに私達が取り組もうとする、その心が何よりも必要ではないかと思えます。

はっきり申し上げます。望めばそれは出来ます。問題は望みさえ失ってしまう事です。意識的に望まなければならないのが信仰の道である事をもう一回考えて見ましょう。

ありがとうございました。